

2025（令和 7）年度
学校関係者評価 報告書

学校法人 東杜学園
国際マルチビジネス専門学校

2025（令和7）年度 学校関係者評価報告書

学校法人東杜学園 国際マルチビジネス専門学校では、教育理念、教育目的等をはじめとする学校教育及び学校運営について現状を点検し、その改善を図るため自己点検・自己評価を実施し「2025（令和7）年度自己点検評価報告書」を取りまとめ、当校ホームページに公開いたしました。

また、学校関係者評価委員会を設置し、本校に関連する業界・企業の皆様より当校の学校教育及び運営に対しご意見やご指導をいただきました。

頂戴いたしましたご意見等につきまして「2025（令和7）年度学校関係者評価報告書」としてご報告させていただきます。

委員の皆様から頂戴いたしました貴重なご意見やご指摘を今後の学校運営に反映させ、教職員一同社会のニーズに応えられる学生指導と教育の質のさらなる向上を目指して参る所存です。

関係者の皆様には、今後共なお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2026（令和8）年9月

学校法人 東杜学園
国際マルチビジネス専門学校
校 長 野口 和江

1 学校関係者評価委員会

（1）学校関係者評価委員

高木 友子 氏 公益財団法人日本ケアフィット共育機構 理事 事務局長
伊藤 彰徳 氏 名鉄観光サービス株式会社 仙台支店 副支店長
齋藤 康紀 氏 仙台ターミナルビル株式会社 ホテル事業本部 事業企画室 室長
板垣 佑子 氏 株式会社 Two of Us 取締役
加藤 ゆかり氏 株式会社留学ジャーナル 編集長

（2）対象期間

2025（令和7）年4月1日～2026（令和8）年3月31日

（3）評価項目、評価スケール

2026(令和8)年学校教育法の一部改正において専門課程を置く専修学校(専門学校)に、大学と同等の項目での自己点検評価が義務付けられたことに伴い、自己点検評価および学校評価の様式を変更し、大項目を11から6に設定した。

評価スケールも従前の4～1の4段階評価から、「基準を上回り、特筆すべき取組等を行っている

場合」は「3」、「基準をおおむね満たす場合」は「2」、「基準を満たしておらず改善が必要な場合」は「1」とする3段階評価にて行った。

「2025（令和7）年度自己評価報告書」を基本に、評価項目別に委員会から頂戴した評価、意見並びに提案を以下に報告いたします。

（4）学校関係者評価

評価項目1：教育理念・目的・目標

・学園理念「多様な価値観を理解し、多数の情報源を有する機動力と行動力を持った人材を育成し、国際・地域社会に貢献できる有益な人材を育成する」の元、ホスピタリティ精神を持ち、「他人を思いやることができる人」をアドミッションポリシーに定め、主に「人間力」、「考える力」、および「自立心」の育成に努めていることを説明した。

就職出陣式についてご質問があり、早期化にある就職活動に対応すべく、1年次の1月に就職出陣式を実施し、この学園理念を念頭に、テクニクよりもまず心構えや取組む姿勢を養うことを目的としていると回答した。

評価項目2：教育課程、教育の実施、学習成果

・「学んだ分野で社会に出る」機会を毎年就職率100%という結果で示せることは、評価に値する。

評価項目3：学生の受入れ学生支援

・学生の普段の食生活について、栄養の偏りに心配な面を感じており、近隣の飲食店とタイアップ等のサポートを検討したいとの説明を行った。

食事は楽しいもの、また人間形成につながる大事な営みであるとの意見を頂戴した。

評価項目4：教育実施組織・教員

・人を育てるためには、教員が日々アップデートし、学び続けることが必要。その「学ぶ機会」を後押しできる制度を検討しては、とのご意見を頂戴した。

評価項目5：教育環境

・図書館についてご質問があり、現在設置はないと回答した。

・学生ラウンジスペースの設置は、学科学年を超えた楽しい憩い・交流の場になるのでは、とのご意見を頂戴した。

評価項目6：教育の基盤と改善・向上の取組

・HRS サービスコンクール等への積極的な出場について、評価をいただいた。

(5) 検討課題

- ・学生の食生活サポート
- ・学生ラウンジスペースの設置
- ・教員の「学ぶ機会」の制度化

以上の内容を学内で検討し、改善案をまとめ、改善を目指す。

以 上